

様々な体験が  
生きている

## 忍者に“なる”ことに生かされた様々な体験 大和郡山市立片桐西幼稚園（奈良県大和郡山市） [4、5歳]

忍者に“なる”子どもたちの姿から、基盤となる体験の大切さを把握することができた。

★考察

	“なる”ことに生きた姿	“なる”ことに生かされた体験
風を感じて	<p>5歳児が忍者になって手裏剣を飛ばしているのを見て、4歳児も手裏剣を作り飛ばした。手裏剣を遠くに飛ばしたいという思いから、戸外で飛ばすようになる。いろいろな場所で試していたが、次第に、風が吹いた時に投げてみようとする子どもも出てきた。保育者が「すごいね、風を読むことも大切なんだね」と周りの子どもたちにも広めると「本当や」「今だ！エイ!!」と、みんなで投げていた。</p> <p>★春、桜吹雪や大きなペール袋（ゴミ袋）でこいのぼりを作って揚げる経験をし、秋、風に飛ばされる落ち葉を体験し、冬、ビニール製の凧上げを楽しんだ子どもたち。子どもたちの生活に身近に感じられる風。今までの経験を基に、手裏剣を遠くへ飛ばすために“風”を利用することを思いついた。風に手裏剣を乗せるとよく飛ぶのではないかと考え試している。</p>	<p>「幼稚園のこいのぼりより、大きいこいのぼりを作ろう」と5歳児が「新聞は破れる」「ビニールがいい」と考え、ペール袋をつなげて作る。大きなこいのぼりが完成すると、早速揚げて、風に吹かれるかを真剣に見つめる。風が吹き、こいのぼりが揺れると、子どもたちは歓声をあげ「もっと、風よ吹け!」と叫ぶ。4歳児もこれを見て、ペール袋で自分のこいのぼりを作る。自分の作ったこいのぼりを凧のように持って、「揚がった」と歓声をあげる。</p> <p>★子どもたちは、園生活の様々な場面で風を感じている。ブランコに乗り吹かれる風、凧を揚げた時に感じる風の力強さ、落ち葉が飛んでいく風の面白さなど、生活の中で自ら触れながら風を感じていく。風に吹かれやすい“モノ”が何であるのかも、生活を通して感じていく子どもたちである。</p> 
身近な植物とかかわって	<p>忍者に“なる”4歳児は、友達と作った巻物を草むらなどに隠す遊びを始める。隠し場所としては、『夏に虫探しをした草むら』『裏庭の栗の木の後ろ』などである。巻物が見えないような背の高い草や茂った草を選び、隠し方を考えたり、樹木などで隠し方を工夫したりする。</p> <p>秋になり落ち葉が積もりだすと、忍者に“なる”子どもたちは、巻物を落ち葉に隠す。落ち葉に埋めると巻物は全く見えなくなる。すると、また違った楽しさを感じられる。</p> <p>★子どもたちは、園内の環境や自然を身近に感じ過ごす中で、遊びに生かしていく。忍者に“なる”ことを楽しむ子どもたちが、遊びを充実していった要因として、子どもたちを取り巻く自然環境や場が大きくかかわっていると思われる。</p>	<p>園庭に咲く草花を摘んだり、木々の変化に驚いたりして、四季折々の自然の変化を楽しむ子どもたち。春、「この背の高い草は何かな?」と自らミニ図鑑で調べる5歳児。「ハルジオンや」と調べてわかる喜びを味わっている。4歳児は「草のツル伸びてきた」と見付けたことを伝え、「クズのツルが伸びてきたね」と先生や友達と一緒に共感する喜びを味わう。秋になると、園庭の木々が紅葉し、色の美しさを感じたり、「落ち葉のお布団できた」と集めた落ち葉の上に寝ころんだりして、落ち葉という自然の贈り物を楽しむ。</p> <p>★子どもたちは、園内の草花や木々という“モノ”にかかわりながら、草花や木の位置を理解し、自然の変化を存分に楽しんでいく。</p> 
時計のおもしろさを感じて	<p>縄跳びが跳べないA児は、縄を回すことと時計の針が回ることのイメージを重ね、忍者の技として自分が回す縄を友達に跳んでもらう「時計跳びの技」を考える。そして、友達に跳んでもらううちに、縄を回すタイミングと跳ぶタイミングが計れるようになり、A児は跳べるようになる。</p> <p>★偶然回していた縄が、以前興味をもっていた時計の針と重なり、「時計跳びの技」を考えるA児。縄を回す中で、自分（“ヒト”）と相手（“ヒト”）とのタイミングを掴み、自分（“ヒト”）も跳べるようになる。このように、“なる”ことから、子どもは、自分と相手との関係の中で、自分を知ったり、相手を自分の中に取り入れたりして“ヒト”を知っていく。</p>	<p>子どもたちは園生活を通して、時間や時計に関心をもつようになる。5歳児は、6月10日の時の記念日が近付くと、園内の時計探検をしたり、時計を見て行動したりする姿も見られるようになる。「もうすぐ10時だから、鳩時計見に行こう」と友達と出かけ「鳩10回鳴いたな」と時間と鳩の関係を楽しむ。</p> <p>★子どもたちは、時計に様々な種類があることに気付いたり、針の動きや機械の音などに触れたりしながら、時計という精密機器の“モノ”の面白さを味わい、時間を意識していく。</p> 

### ポイント

“忍者になる”という模倣遊びでの体験に着目し、「科学する心」を捉えて分析しています。着目した子どもたちの姿から振り返り、こいのぼりの様子から自然現象「風」を感じることも、様々な草花や生き物とのかかわりも、時計などの教材や機器とのかかわりも、見逃せない体験であることを掴んでいます。日常の何気ない体験に関連していることが明らかになることで、「科学する心」が育まれている過程や成果の把握に結び付きます。